

【知の新書】

2021年12月20日発売

文化科学高等研究院出版局

ehescjapan.com を参照

琴寄政人 大震災・原発事故からの復活

「榎葉郷農家の10年」の場所

「生きていてよかった。」それは、場所が生み出すもの。そこで人は苦難に立ち向かい暮らし、笑顔をとりもどす。震災・原発事故から二週間が過ぎて、福島にお邪魔し始めた。その中で徐々に感じるようになったことは、被曝や放射能のことではなかった。活動場所は、いわきの海岸から避難所に、そして仮設住宅へと移った。活動内容は瓦礫処理だったのが、被災者からの「ニーズ聴き取り」へと移った。そこでももちろん、原発事故が生んだ苦しみや、互いに憎しみあう心を知ることになった。しかし同時に、揺るぎない人たちがいることも、少しずつ分かっていった。その人たちは、「生業(なりわい)」というものを身に着けていた。そこで、「生業」と「仕事」というものの違いを、初めて知ることとなった。力強い言葉と、緩やかではあっても確かな歩みには、「土のにおい」がした。

涙しながら牛をおいて避難せざるを得なかった農家の思い。「私の家族は137人、お父さんとお母さんとじいじとばあばとじいちゃんとはあちゃんと130頭の牛たちです。」

場所の民の生存において原発は必要ない。エネルギーだけを切り離して、郷の生存を無視するところには環境さえない。

大震災、原発事故、その苦難を超えて復活する人々の生き方の十年。



192 ページ 新書
定価 1430 円 (本体 1300 円 + 10% 税)
ISBN 978-4-910131-23-8 C0236



著者右、と槍農家の渡部氏

近代行政区域は、場所を喪失している。原発避難区域は、機械的な区分けで場所状態の具体実際の生活地盤に立脚していない。数字至上主義は、場所を無視する。未曾有の大震災と原発事故の苦難を被りながらも、「これしかできねえんだよ」と場所にもどって、場所で牛農家復活してきた渡部氏の力。平準化された皆同じものを享受している私たちに、忘れていた感覚の感動を呼びおこす生身の力強い復活。

009 山本つし
007/ジェームズ・ボンド論

【赤版 1430 円】

001 山本哲士 甦えれ 資本経済の力

文化資本と知的資本

002 矢野雅文 科学資本のパラダイムシフト

パンデミック後の世界

003 松下和夫 気候危機とコロナ禍

緑の復興から脱炭素社会へ

004 吉本隆明 超資本主義の現在

005 浅利 誠 ジャック・デリダとの交歓
パリの思索

006 ボルトンスキー

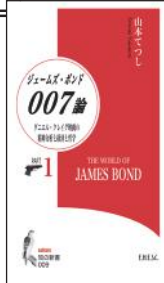
道徳判断のしかた
告発 / 正義 / 愛 / 苦しみと
資本主義の精神

007 河北秀也

場所のころとことば
デザイン資本の精神

008 坂井秀夫

歯は人生を左右する
歯科医療の誤りを正す



注文はJRCへ fax.03-3294-2177

文化科学高等研究院出版局 tel.03-3580-7784 fax.03-5730-6084

大震災・原発事故からの復活

「榎葉郷農家の10年」の場所

琴寄政人

定価 1430 円

新書

書店名

部数

ISBN 978-4-910131-23-8

C0236 ¥1300